

授業づくり FIRST STEP ―小学校道徳科―

1 授業構想は何のため？

- 学習指導要領では、新しい時代に必要な資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 道徳科は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を行います。
- 道徳科の授業を構想することで、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」及び「考え、議論する道徳」につながります。



2 授業構想の手順

- ① 年間指導計画を確認します。
- ② 指導する内容項目に対する児童の実態を把握します。
- ③ 指導の意図を明らかにします。
- ④ 授業全体の展開について構想します。

3 授業構想の具体

（例：C 主として集団や社会との関わりに関すること 12 規則の尊重 「ごちそうさまのあとで」文部科学省 小学校道徳 読み物資料集）

① 年間指導計画を確認します。

□各学年の基本方針、各学年の年間にわたる指導の概要（主題名、ねらい、教材、学習指導過程と指導の方法など）を確認する。



学校教育は、関係法令及び学習指導要領に基づいて編成された教育課程を実施することが求められています。道徳科の授業においても同様に、年間指導計画等に従って全ての教師が意図的、計画的に指導することが重要です。（小道解説 p.92）

② 指導する内容項目に対する児童の実態を把握します。

□小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（以下、小道解説）を用いて、内容項目やその概要、指導の要点を確認する。

C 主として集団や社会との関わりに関すること 12 規則の尊重（小道解説 pp.50-51）

〔第1学年及び第2学年〕 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	
内容項目の概要	指導の要点
➢ …約束や法、きまりを進んで守ることができるようにすることが必要である。… ➢ …よりよい人間関係を形成する上では、自分の思いのままに行動するのではなく、集団や社会のために自分が何をすればよいのか、また自分に何ができるのか…	➢ …身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し… ➢ …みんなで使う物や場所を進んで大切にし、工夫して使いたいという判断力や態度…

□指導する内容項目に対する児童の実態を把握し、指導上の課題を具体的に捉える。

・これまでの教育活動や指導場面を振り返ったり、アンケートなどを用いたりして、児童の実態を把握する。

「きまりを進んで守ること」は、大体の児童ができているな。
しかし、「集団や社会のために自分が何をすればよいのか、また自分に何ができるのか」については、考える機会が少なかったかもしれない。



③ 指導の意図を明らかにします。

□具体的に捉えた指導上の課題を基に、主題名やねらい、教材を検討し、指導の意図を明らかにします。

指導の意図を明らかにした計画

時期	【主題名】＜内容項目＞『教材名』	ねらい
9月	【みんなのことをかんがえて】 ＜C 主として集団や社会との関わりに関すること12 規則の尊重＞ 『ごちそうさまのあとで』	みんなが気持ちよく過ごすためにできることを考え、進んで行動しようとする実践意欲と態度を育てる。

学校生活に慣れてきた今だからこそ、児童が「規則の尊重」について、「公共心・公德心」を手掛かりに考え直すことで、集団生活の中の規則の意義や大切さについて考えることができるだろう。



④ 授業全体の展開について構想します。



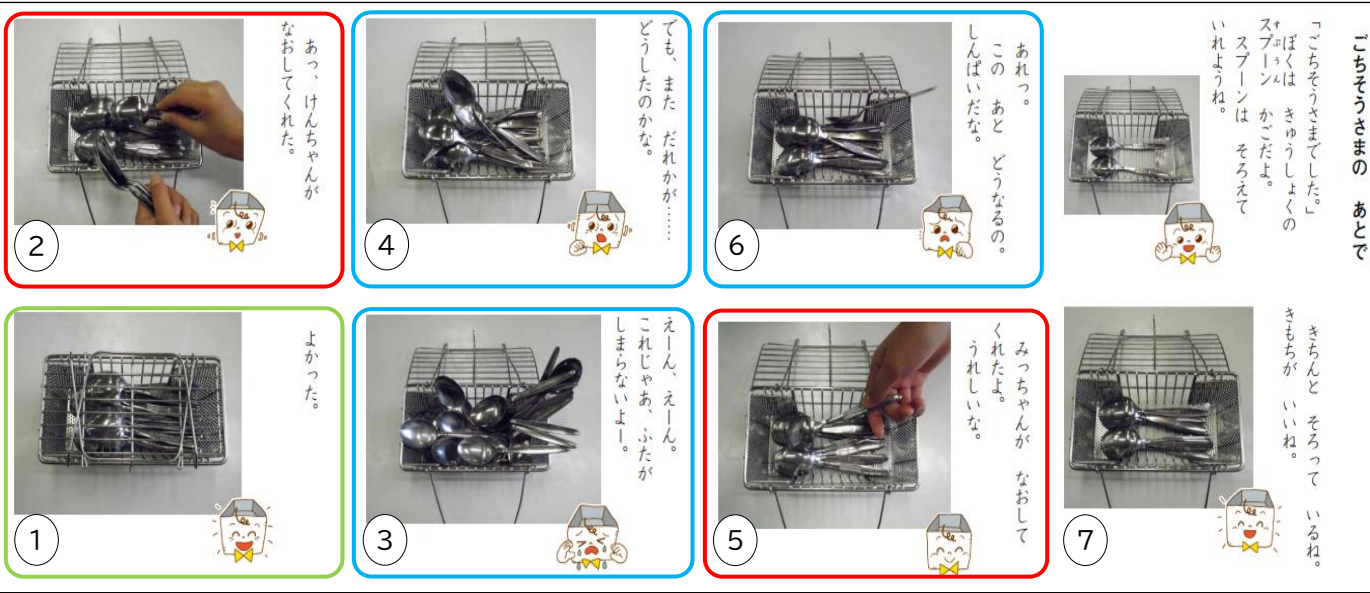
ねらい、児童の実態、教材の内容などを基に、授業全体の展開について考えます。その際、児童がどのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら、それらが効果的になされるための授業全体の展開を構想しましょう。（小道解説 p.81）

□教材を吟味する。

・授業者が児童に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているか検討する。

「ごちそうさまのあとで」文部科学省 小学校道徳 読み物資料集

この教材は、「教材の結末＝授業のまとめ」になってしまうと、当たり前のことを学習することになったり、特定の価値観を押し付けたりすることになるかもしれない。



教材をそのままの順で読み進めるだけでは、①の結末の写真から、「規則遵守」の見方や考え方に偏ってしまうのではないかな。これでは、ねらいに合わないぞ。

①の結末の写真ではなく、②や⑤の写真で、スプーンを整頓している人の写真に着目させることで、ねらいに迫ることができるかもしれないぞ。



③や④、⑥の写真で、スプーンを整頓していない人の写真に着目させると、「自分にも経験がある」「その気持ちが分かる」という人間理解や他者理解にもつながるかもしれない。写真を基に、対比的な見方や考え方ができるとよいかもしれない。

□ 基本的な学習指導過程（導入・展開・終末）に即して、具体的な児童の学習状況を想定する。

	導入	展開	終末
段階	主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階	中心的な教材によって、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる段階	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階
想定する具体的な児童の学習状況	○児童は、結末の写真⑦を見せたら、「規則遵守」という道徳的価値を手掛かりに「このクラスは、いいクラスだ」と言うだろう。	○結末に至るまでの過程（主に写真③や⑥）に着目させ、ねらいとする「公共心・公德心」という道徳的価値を手掛かりにすることで、「本当にいいクラスだろうか？」という問いをもつことができるだろう。	○導入、展開の学習活動を踏まえて、「いいクラス」に対する見方や考え方が広げられるだろう。

授業の中で予想される具体的な児童の学習状況を想定することで、より指導の意図に基づいた授業を構想することができるな。



道徳科の学習指導過程には、特に決められた形式はありませんが、一般的には「導入、展開、終末」の各段階を設定することが広く行われています。それぞれの段階における工夫を意識しながら、具体的な児童の学習状況を想定することが大切です。（小道解説 p.82）

□ 道徳科に生かす指導方法の工夫を取り入れる。



道徳科に生かす指導方法には多様なものがあります。ねらいを達成するには、児童の感性や知的な興味などに訴え、児童が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるように、ねらい、児童の実態、教材や学習指導過程などに応じて、最も適切な指導方法を選択し、工夫して生かしていくことが必要です。（小道解説 p.84）

	導入	展開	終末
指導方法の工夫	教材を提示する工夫 導入では、結果の写真を先に示そう。展開で、残りの写真をあとから提示しよう。		
	発問の工夫 導入と終末で、問題場面に対する児童の考えや価値観を問おう。必要に応じて、問い返しをしよう。		
	書く活動の工夫 発問の工夫に合わせて考えを記述できるようにしよう。	話し合いの工夫 展開で話し合う際は、話し合う視点や柱を設けるなどして、何について話しているのか明確になるようにしよう。	書く活動の工夫 終末にも考えを記述できるようにして、変容を捉えられるようにしよう。
	板書を生かす工夫 学習指導過程に応じて、考えたり話し合ったりしたことを整理できるように板書計画を立てよう。		



道徳科の学習指導を構想する際には、学級の実態、児童の発達の段階、指導の内容や意図、教材の特質、他の教育活動との関連などに応じて、「多様な教材を生かした指導」「体験の生かし方を工夫した指導」「各教科等と関連をもたせた指導」など、柔軟な発想をもつことが大切です。（小道解説 pp.83-84）

学習指導案(例)

3 本時のねらい

みんなが気持ちよく過ごすためにできることを考え、進んで行動しようとする実践意欲と態度を育てる。

4 本時の展開

過程	学習活動	主な発問 (○) 予想される児童の反応 (・)	◇ 指導上の留意点				
導入	1 給食の時間を振り返る。	○今日の給食の時間について先生に教えてください。 ・きょうのきゅうしょくのメニューは…だったよ。 ・おいしかったから、おかわりをしたんだ。	◇ 給食の様子について問い、その場面を具体的に想起できるようにする。				
	2 写真①を見て、どのような学級か考える。	○これは、ある学級の給食の後の写真です。皆さんはこれを見て、どう思いますか。 ・きれいに食べることができてえらい。 ・ちゃんとできている、いい学きゅう。 ・先生のいうことをきちんときいている。	◇ 写真①を提示し、そこから感じたことや考えたことを発表することができるようにする。				
	3 公共物を大切にすることのよさについて考える。	○みんなで使う物を大切にすることで、どのようなよいことがありますか。 ・ほかの人がこまらなない。 ・かたづけやすい、もっていきやすい。あんぜん。 ・おちたり、なくなったりしない。 ・見た目がいい、気持ちがいい、ほめられる。	◇ みんなで使う物を大切にすることの一般的なよさについて考え、共有することができるようにする。				
展開	4 写真①～⑦を見て、再度どのような学級か考える。	○今から見せる写真も、先ほどと同じ学級のもです。皆さんは、これを見てどう思いますか。 <table> <tr> <th>よいところ</th><th>もんだいだとおもうところ</th></tr> <tr> <td> ・さいしょの人はきれいにしているね。 ・と中に、なん人が気づいた人がいるみたいだね。 ・気づいたあとに、きちんとこうしていいところがあるね。 ・やさしい人もなんかいっているみたいだよ。 </td><td> ・ほとんどの人は、ばらばらのままかえしているよ。 ・「だれかがしてくれるだろう」「じぶんはかんけいない」とおもっている気がするな。 ・先生にちゅういされるまで、このままなのかな。 ・だれかにまかせっぱなしの学きゅうは、よい学きゅうなのかな。 ・気づいた人は、「ばらばらだよ」とおしえてもいいね。 </td></tr> </table>	よいところ	もんだいだとおもうところ	・さいしょの人はきれいにしているね。 ・と中に、なん人が気づいた人がいるみたいだね。 ・気づいたあとに、きちんとこうしていいところがあるね。 ・やさしい人もなんかいっているみたいだよ。	・ほとんどの人は、ばらばらのままかえしているよ。 ・「だれかがしてくれるだろう」「じぶんはかんけいない」とおもっている気がするな。 ・先生にちゅういされるまで、このままなのかな。 ・だれかにまかせっぱなしの学きゅうは、よい学きゅうなのかな。 ・気づいた人は、「ばらばらだよ」とおしえてもいいね。	◇ 写真②～⑦を順に提示し、全ての写真を通して、内容の展開を確認する。 ◇ 「よいところ」「問題だと思うところ」という視点で整理することができるように、それぞれの写真について、「人」「行為」「気持ち」に着目して話し合うことができるようにする。
	よいところ	もんだいだとおもうところ					
・さいしょの人はきれいにしているね。 ・と中に、なん人が気づいた人がいるみたいだね。 ・気づいたあとに、きちんとこうしていいところがあるね。 ・やさしい人もなんかいっているみたいだよ。	・ほとんどの人は、ばらばらのままかえしているよ。 ・「だれかがしてくれるだろう」「じぶんはかんけいない」とおもっている気がするな。 ・先生にちゅういされるまで、このままなのかな。 ・だれかにまかせっぱなしの学きゅうは、よい学きゅうなのかな。 ・気づいた人は、「ばらばらだよ」とおしえてもいいね。						
終末	5 学習を振り返る。	○7つの写真を見て、どのようなことを考えましたか。 ・だれかだけではなくて、みんなががんばりたいな。 ・「やらないといけないからする」ということも大じけど、それはみんなのためになっていることにつながっているんだよね。 ・みんなが気をつけないと、本とうにいい学きゅうにはならないな。 ・人から言われるまで気づかないとか、うごかない学きゅうとかじゃなくて、じぶんたちで気づくことができる学きゅうにしていこう。 ・早くあそびたい気持ちもあるけど、だれかがしてくれるばかりではいけないよね。じぶんのためだけではなくて、ほかの人のためにはたらける人になりたいな。 ・さいごの見た目だけがきれいでも、本とうにみんなのことをかんがえているとはいえないね。 ・ほかの人のことをかんがえる気持ちも大せつにしたいな。 ・すごいやさしいクラスは、みんながきょう力しないといけないんだな。	◇ これまでの自分自身の経験に基づき、心に残っていることや、大切だと思っていたことなどを振り返り、他の道徳的価値に触れながら話し合うことができるようにする。 ◇ 意見が出にくい場合は、再度内容の展開を確認したり、学習活動3と学習活動4の「問題だと思うところ」を振り返りながら考えたりするように伝える。				

- 板書を生かす工夫
- 教材を提示する工夫
- 発問の工夫
- 書く活動の工夫
- 話し合いの工夫

児童の学習状況を具体的に想定することで、道徳科の特質を生かした学習指導になっているかを振り返りながら、授業を構想することができるね。



指導の意図によって、教材の吟味、板書を生かす工夫や教材を提示する工夫、発問の工夫、書く活動の工夫、話し合いの工夫など、学習指導過程に即した指導方法の工夫の取り入れ方が変わるね。児童の実態を基に、授業者の指導の意図を明確にすることが大切だね。

□ 道徳科の授業に対する評価の観点を立てる。

評価の観点(例)

- ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- イ 発問は、児童が多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。 など



明確な意図をもって指導の計画を立て、授業の中で予想される具体的な児童の学習状況を想定し、授業の振り返りの観点を立てることが重要です。道徳科の学習指導過程や指導方法に関する評価の観点はそれぞれの授業によって、より具体的なものとなります。詳しくは次頁を御覧ください。（小道解説 p.115）

△ 本時の詳細については、「[学習指導プラン](#)」を御参照ください。

4 道徳科における評価は何のため？

- 道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し、評価することが求められます。
- 児童の学習状況の把握を基に授業に対する評価と改善を行う上で、学習指導過程や指導方法を振り返ることは重要です。教師自らの指導を評価し、その評価を授業の中で更なる指導に生かすことが、道徳性を養う指導の改善につながります。



(1) 道徳科における評価

道徳科における評価について、小道解説では、以下のように示されています。

- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- ・他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うこと
- ・学習活動において児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- ・組織的、計画的な評価を推進すること など

（小道解説 pp. 109-113）

(2) 道徳科における児童の学習状況及び成長の様子についての評価

道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を、様々な工夫を凝らしながら把握する必要があります。特に重視することとして、次の評価の視点が挙げられます。

視点	一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展しているか	道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
児童の具体的な姿	○道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。 ○自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。 ○複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。	○読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。 ○現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。 ○道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。 ○道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。
見取り方	➤ 発言、感想文、質問紙の記述等から見取る。 ➤ 教師や他の児童の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する児童の姿に着目する。 ➤ 感想文や質問紙の記述等が、一定の期間を経て多面的・多角的な見方へと発展しているなどの状況に着目する。	
評価のための具体的な工夫	◇児童の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したものを活用する。 ◇児童が道徳性を養っていく過程での児童自身のエピソードを累積したものを活用する。 ◇作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握できるものを活用する。	

(3) 道徳科の授業に対する評価

道徳科の授業に対する評価に当たっては、明確な意図をもって指導の計画を立て、授業の中で予想される具体的な児童の学習状況を想定し、授業の振り返りの観点を立てることが重要です。こうした観点をもつことで、指導と評価の一体化が実現することになります。

道徳科の学習指導過程や指導方法に関する評価の観点はそれぞれの授業によって、より具体的なものとなりますが、その観点としては、次のようなものが考えられます。

観点	ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、自己の生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。 イ 発問は、児童が多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。 ウ 児童の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。 エ 自分自身との関わりで、物事を多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。 オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。 カ 特に配慮を要する児童に適切に対応していたか。
工夫	ア 授業者自らによる評価 ・授業者自らが記憶や授業中のメモ、板書の写真、録音、録画などによって振り返る。 ・児童一人一人の学習状況を確認する手立てを用意しておき、それに基づく評価を行う。 イ 他の教師による評価 ・道徳科の授業を参観した教師からの指摘を受ける。 ・あらかじめ重点とする評価項目を設け、チーム・ティーチングの協力者などから評価を得る。



教師の指導による児童の学習状況を把握して評価することを通して、改めて学習指導過程や指導方法について検討し、今後の指導に生かすことができるようにしなければなりません。また、道徳科の授業で児童が伸びやかに自分の感じ方や考え方を述べたり、他の児童の感じ方や考え方を聞いたり、様々な表現ができたりするのは、日々の学級経営と密接に関わっています。

（小道解説 p. 116）

△本時の詳細については、[「学習指導プラン」](#)を御参照ください。